

紛争報告も独自で

東教大文学部教授会 大学側硬化

東京教育大学文学部教授会が、いままでにならぬ紛争状態が書
 大学側に知らせまいま主坂田文相
 ありて紛争報告していたことが、
 二日わかり、大学側を硬化させて
 いる。文学部教授会の説明による
 と、この紛争報告は、大学運営
 時間法に定める「紛争報告」と
 はまったく別のもので、一日、教
 授会名で文相あて提出したとい
 う。内容は、先月十日、同教授会
 が授業再開を宣言したあと、入構
 方派、教員の検問協力などをめぐ
 った大学側と意見の衝突がつかぬ
 限は、本来教授会にあるのに、そ
 いままでにならぬ紛争状態が書
 き込まれているという。
 大学側は、この報告書が出され
 ていることを、二日、文部省から
 の電話連絡で初めて知り、授業開
 閉は、先に校内に設置した授業再
 開委員会で調整できるはず。ま
 だ、調整期間が経っているのに調
 整を多岐にわたる、文部省、府共を勝
 手に解らされるのは心外」と驚い
 ている。

授業も二本立て?

また同大学文学部は一日夜、同
 学部の授業再開計画を本部独自に
 立案することを決めたが、大学側
 は「一日一あくまで既定方針通り
 文学部の授業計画は大学で立案す
 る。文学部の態度変更は一顧の
 察し行ない」と硬化、きよう三
 日、評議会を開き文学部授業計画
 を最終決定することになり、この
 まま調整がつかなければ、大学側、
 文学部側の二本立て授業が確実と
 なった。

東京教育大の授業再開 評議会が独自案

東京教育大は三日の評議会で大
 学独自の授業再開案を最終的に決
 め、これを正統の授業として公表
 する。同大では、文学部教授会が
 大学執行部との授業再開の条件に
 ついて話し合いがつかないまま、再
 開進行を宣言したため、官邸学長
 代行が執行部はこの宣言を交際打

切り活用と受取ったためである。
 大学独自の授業再開案は、筑波
 大学に所属する文学部教授会が、筑波
 大学中心に、官邸代行の正常化路線
 に全面的に協力する教員を加え、
 不足分は非常勤講師で補おうとい
 う構想。

これに対し文学部教授会は同
 日、評議会決定とともに「受講力
 ード締め切りは先月十五日にす
 る」と大学側と正面から対決する

10/3 朝日

不足分は非常勤講師で補おうとい
 う構想。受講する文学部学生には
 官邸代行の特別入構証を発行
 し、六日ごろから開講の予定とい
 う。

授業再開、暗礁に

東教大文学部 教授会が小委ボイコット

文学部の授業再開をめぐって同
 学部の教授会と大学執行部の対立が
 鋭まっている東京教育大(官邸学長
 代行)では、二日午後、授業
 計画小委員会を開いたが、教授会
 が小委委員をボイコットし、文学
 部の正常授業開始は暗礁に乗り上
 げた。教授会では学内で独自の授
 業計画を進めることになっているの
 の、入構手続きに関する文学部
 側の言い分を大学執行部は認め
 ない。場合によっては九月十六
 日の授業再開時のように、大分
 局が入構を拒否するといった事柄
 も予想される。また教授会が前
 述した三十八人の教員は個別に授業を
 進めており、教授会が計画通り授
 業を再開したとしても対立した二
 つの授業が並行することになり、
 文学部授業の混乱は二分難きよう
 だ。

予定通り授業再開
 東教大文学部
 大学当局から、確実宣言がされ

女東教大文学部(入江正起
 男学部長)は一日午後、教授会を
 開き、既定方針あり、文学部の
 授業再開方針を決めた。大学当局
 がきめた、学長直轄案との調整
 余地は三日の評議会に残している
 が、不調の場合は二重授業が行な
 われることもあり、学生側から
 らる支持が弱まっている。

東教大文学部で 2つの授業へ

反対派教授会が再開案拒否

大学にたいする批判的態度をの
 らたためないとして、大学側の授
 業計画から、切り捨て、宣言さ
 れていた東京教育大文学部は、一
 日「授業を再開する構想は教授会
 にある」として二日から授業を再
 開したことを宣言した。
 同大学では、すでに授業をわっ
 ている形勢で、三十八人の
 文学部教員を中心に九月六日から
 文学部授業の全面再開を計画して
 おり、この形勢で対決の文学部の
 授業再開宣言で、二つの文学部授
 業が行なわれることになった。

10/4 毎日

文学部授業は 学長直轄で

東教大評議会

東京教育大学は三日の評議会
 で、文学部授業再開について、学
 長代行の立案した、学長直轄
 案を評議会案と決定し文学部側
 に協力を求めることを決めた。文
 学部は六月に教授会を閉じた。評
 議会は七日の評議会を回答する。
 この結果、四日にも突入とさら
 れていた二重授業は、先に伸び
 た構想だが、文学部と学長代行と
 の間の根本姿勢の差は調整されて
 おらず、強まったままである。